

水

長谷川時雨

青空文庫

趣味とは、眺めてゐるものと、觸さはつて見るもの、觸ふれなければ堪能できないものと、心に養つてゐるものがある。それを大おほづかみに一括して「趣味」といふのだらうが、自分に出来ないことを羨ましがるのも、いい意味での趣味だ。それは羨望には、ものねたみをふくむ憂およぎひはあるが、こんなのは甚だ罪が浅い――

といふのは、私には水泳およぎが出来ないのだ。これは水ぎらひとか、恐怖とかいふのから出来ないのではなくて、生れた土地的のものからと、體質からだからとで、水練の機會がなかつたからだが、これは、一生を通じて損をした大きなものだと思ふ。

場處により、土地によると、別に財物がなくても修練の出来る

業わざであり、また健康でさへあればほんの僅かの暇ひまさへあれば、自由ゆづりに楽たのしみまれることであり、それによつて、夏の生々しさを、どれほどよろこびをもつて迎へることが出来るかわからない。わたしは健康でさへあればといったが、その健康もまた、それによつて恵まれもする。

わたしのお友達で、水練みづねに熟達してゐる人に、神近市子さんがある。神近さんは南國の海邊のお生れであり、拔手を切つて泳ぐ颯爽たる姿は、誰の目にも思ひうかべられるであらうが、も一人、平塚明子さんが、水の上の仙境を自由にされることは、あんまり知る人がない。

——海面うみに浮いて、空を、じつと眺めてみると、無念無想、蒼あお

ほぞら
空の大きく無限なることをしみ／＼とおもふ——

かつて、そんなふうには話されたことがある。それは、わたしが
常^{つね}不^{しじう}斷、海にういて、大空を眺めてゐたらば——と思ふ、悠久
たる^{おもひ}想念と合致した、實行の報告なので、さぞ、さこそ、さもさ
うあらうと、想像しても楽しかつた。それは、考へれば怖い水の
下の深さ、廣さ——けれども、それは、仰ぎ見る空の深さ、大き
さにくらぶべきでもない。そして、そこに浮ぶ人間の怖れは、小
さな抵抗——生に執着した瞬間からの怖さであらうが、そんなこ
とに拘泥しないのは、泳いで歸られるだけの自信があり、水はよ
く浮かしてくれるといふ體得があればこそである。

うらやましいなあと思ふ。水が充分におよげて、人も家もない

あたりで、大空にむかつて浮んでゐるその瞬間、もしこれをわたしに天が與へてくれたならば、わたしは何をそこで會得するか、それとも何にもしないか――

私は不自由な、都會生れの子だつた。しかも、まだ封建的殘物の濃厚な時代に、藏と藏の間に生れた虚弱兒だ。品川の海を時々ながめ、鎌倉の海を、やつと見せてもらへる位だつた。男女七歳にしての庭訓をしへきびしくて、水練の修得などをうる機會はなかつた。それでゐて、そこに蟄服して育つた女の子わたしは、馬に乗ることと、海におよぐことが、一度やつてみたい念願だつた。やつてみて、やれなくはなかつた年頃になると、病わづらひがちな身になつてしまつた。

泳げないから水をおそれる。そのくせ水が——水邊がすきだ。水の趣きは、實に興趣多々だ。ことに盛夏になると、水、水ではないか、仕事をしたあとで飲む一杯の水でも、コップを手に差しあげて、なみなみ盛つた豊ゆたけさを眺め飲みほすと、生活の力が流れ込むやうに思へる。

（「生活と趣味」昭和十年七月八日）

青空文庫情報

底本：「桃」中央公論社

1939（昭和14）年2月10日発行

初出：「生活と趣味」

1935（昭和10）年7月8日

入力：門田裕志

校正：仙酔ゑびす

2008年12月7日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

水

長谷川時雨

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>